



初期テレビジョンにおける「公開実験」研究：科学技術社会論/メディア論からの展望（第2回神戸芸術学研究会報告）

飯田，豊

(Citation)

美学芸術学論集, 5:63-63

(Issue Date)

2009-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCOI)

<https://doi.org/10.24546/81002349>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002349>



初期テレビジョンにおける「公開実験」研究 —科学技術社会論／メディア論からの展望

飯田豊（福山大学人間文化学部専任講師）

これまで報告者が試みてきたのは、われわれの生活に根ざした「テレビ」という科学技術について、「放送」や「マス・コミュニケーション」といった概念との関わりを自明とせず、その成り立ちを根源的に問い直すことである。とりわけ、昭和初期におけるテレビジョン技術史を解釈し直し、博覧会や展覧会、百貨店の催事場などで人気を博していた「公開実験」の変容に焦点をあてることを通じて、いかなる視聴空間のあり方がかつて模索されていたのかを明らかにしてきた。この報告では、初期テレビジョン研究に取り組むなかで得られた知見を具体的に示しつつ、科学技術の専門家と非専門家、あるいはメディアの送り手と受け手が、お互いに初めて接触し、交渉しうる具体的な場としての「公開実験」に着目することの意義を考える。

このことはメディア論に限らず、科学技術社会論の潮流と通底する。さまざまな科学技術が日常生活のあらゆる領域に浸透している現在、メディアと人間との望ましい関係をデザインしていくためには、技術の生産と消費の相互作用、専門家と非専門家の対話が不可欠である。そうした試みの課題と展望を、「公開実験」の歴史社会学を通じて検討する。